

**令和元年度（2019）第1回出雲市障がい者施策推進協議会
会議等開催結果報告書**

1. 会議名	令和元年度第1回出雲市障がい者施策推進協議会																															
2. 開催日時	令和元年(2019)7月17日(水) 14:00～16:00																															
3. 開催場所	出雲市役所本庁3階 庁議室																															
4. 出席者	<p><委員></p> <p>芦矢京子委員、石飛丈和委員、石橋美恵子委員(代理)、井上明夫委員、尾添純子委員、勝部寿子委員、金川克則委員、兒玉浩二委員、兒玉信広委員(代理)、佐貫文紀委員、塩飽邦憲委員、新宮直行委員、新藤優子委員、高木加津枝委員、永岡秀之委員、柳楽紀美子委員、藤川祐介委員、牧野由美子委員(代理)、山本順久委員、渡部幸義委員</p> <p>(20名)(50音順)</p> <p>欠席：和泉積委員、糸原直行委員、大野美和委員、須谷生男委員、錦織正二委員 原広治委員(6名)</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部長、福祉推進課長、福祉推進課主査 ほか</p>																															
5. 会議等において検討された事項等	<p>1 開会</p> <p>2 健康福祉部長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 報告事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">(1) 平成30年度障がい福祉サービス等状況報告</td> <td style="width: 10%; text-align: center; border: 1px solid black;">資料1</td> <td style="width: 20%;">1～10頁</td> </tr> <tr> <td>(2) 平成30年度サービス調整会議状況報告</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;">資料2</td> <td>11～13頁</td> </tr> <tr> <td>(3) 平成30年度障がい者虐待防止センター状況報告</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;">資料3</td> <td>14～15頁</td> </tr> <tr> <td>(4) 平成30年度障がい者差別相談センター等状況報告</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;">資料4</td> <td>16頁</td> </tr> <tr> <td>(5) 平成30年度手話普及の取組状況報告</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;">資料5</td> <td>17頁</td> </tr> <tr> <td>(6) 平成30年度生活保護精神障がい者退院促進事業状況報告</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;">資料6</td> <td>18頁</td> </tr> <tr> <td>(7) 令和元年度指定特定相談支援事業者等指導予定</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;">資料7</td> <td>19～20頁</td> </tr> <tr> <td>(8) 令和元年度専門部会、就労支援ネットワーク会議事業計画</td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black;">資料8</td> <td>21～32頁</td> </tr> </table> <p>5 議事</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">(1) 国の調査研究事業の実施について</td> <td rowspan="3" style="width: 10%; vertical-align: middle; text-align: center;">}</td> <td rowspan="3" style="width: 20%; vertical-align: middle;">資料9 別冊</td> </tr> <tr> <td>(2) 地域生活支援拠点整備に係る進捗状況について</td> </tr> <tr> <td>(3) 障がい者ニーズ把握等のアンケート内容の検討について</td> </tr> </table> <p>6 その他</p> <p>次回以降開催予定</p> <p>○第2回 令和元年(2019)12月18日(水) 14時～16時</p> <p>○第3回 令和2年(2020)3月11日(水) 14時～16時</p> <p>7 閉会</p>			(1) 平成30年度障がい福祉サービス等状況報告	資料1	1～10頁	(2) 平成30年度サービス調整会議状況報告	資料2	11～13頁	(3) 平成30年度障がい者虐待防止センター状況報告	資料3	14～15頁	(4) 平成30年度障がい者差別相談センター等状況報告	資料4	16頁	(5) 平成30年度手話普及の取組状況報告	資料5	17頁	(6) 平成30年度生活保護精神障がい者退院促進事業状況報告	資料6	18頁	(7) 令和元年度指定特定相談支援事業者等指導予定	資料7	19～20頁	(8) 令和元年度専門部会、就労支援ネットワーク会議事業計画	資料8	21～32頁	(1) 国の調査研究事業の実施について	}	資料9 別冊	(2) 地域生活支援拠点整備に係る進捗状況について	(3) 障がい者ニーズ把握等のアンケート内容の検討について
(1) 平成30年度障がい福祉サービス等状況報告	資料1	1～10頁																														
(2) 平成30年度サービス調整会議状況報告	資料2	11～13頁																														
(3) 平成30年度障がい者虐待防止センター状況報告	資料3	14～15頁																														
(4) 平成30年度障がい者差別相談センター等状況報告	資料4	16頁																														
(5) 平成30年度手話普及の取組状況報告	資料5	17頁																														
(6) 平成30年度生活保護精神障がい者退院促進事業状況報告	資料6	18頁																														
(7) 令和元年度指定特定相談支援事業者等指導予定	資料7	19～20頁																														
(8) 令和元年度専門部会、就労支援ネットワーク会議事業計画	資料8	21～32頁																														
(1) 国の調査研究事業の実施について	}	資料9 別冊																														
(2) 地域生活支援拠点整備に係る進捗状況について																																
(3) 障がい者ニーズ把握等のアンケート内容の検討について																																
6. 担当部署	健康福祉部福祉推進課障がい者福祉係	連絡先	0853-21-6959																													
7. 会議録	別添のとおり																															

令和元年度（2019）第1回出雲市障がい者施策推進協議会会議録（要旨）

1. 開会	本協議会を公開で開催、傍聴人1名
2. 部長あいさつ	省略
3. 会長あいさつ	省略
4. 報告事項	
会長	（1）平成30年度の障がい福祉のサービス等の状況報告を事務局から。
事務局	<u>資料1の説明</u>
会長	昨年度末に見込を報告いただき今日確定値ということで計画と多少違うものを中心に説明してもらった。意見、質問はあるか。
A 委員	7頁の「保育所等訪問事業」という内容だが、もう少し詳しく説明してもらいたいのと、9頁の「情報・意思疎通支援用具」日常生活用具給付の関係で、かなり障がいを持たれた子どもや大人も対象だと思うが、意思疎通のツールがみんな同じではないと思う。この96件の中でなかなか通りにくかった物とかいろいろあったのではないかと思うが、パソコンとかICT環境が非常に整備する中でそういった物がツールとしてどうしても必要だというケースもあったのではないかと思うが、その辺の割合というのはどんな感じだったのか可能な範囲で教えてほしい。
事務局	「保育所等訪問事業」については、サービスの内容が2種類あり、共通して行う所が保育所や幼稚園や小学校に伺い支援するということであり、一つは保育園、幼稚園、小学校そして中学校もですが、そこで支援される先生方、支援者について「こういうふうにしたほうが、この子どもについてはいいですよ。」と「支援者を支援する訪問支援」、もう一つは利用者、児童の保育所や学校での直接支援、その2種類の支援があり今回利用が増えていると考えている。 つづいて、日常生活用具の「情報・意思疎通支援用具」については、最近ICTの普及によりパソコン、タブレット等で障がい者に特化した物も開発されていて市の方でもそういったタブレット等が助成対象にしてほしいという意見を多くもらっている。そういった中で市の方ではタブレット等で一部パソコンの中の品目として助成対象にすることとし、障がいのある方が意思疎通が円滑にできるようになっている。
会長	先程の質問で、通りにくい品目がありましたかということについては適宜拡大をしていると受け止めてよろしいか。
事務局	給付条件を満たしていれば、それを受け付けなかったという事例はない。

A 委員	<p>ありがとうございました。ますますこれからいろんなことが考えられると思うので、その給付条件というものを拡大しなくてはいけなくなると、学校現場としてはいろいろと思うところである。</p> <p>それと先ほどの保育所からの支援のところについては、小学校も中学校も対象だということになってくると当然学校の方も情報共有していかないといけない部分も出てくるかなと思っているので、その目的等を事前に共有しながら進めていなくていけないと話の中で思った。</p>
会長	<p>いろいろな事業が増えてくるので、本人や保護者の了解を得ながら情報については共有して対応していただきたいと思う。他にはよろしいか。</p> <p><u>4の(2)～(5)説明省略</u></p>
会長	<p>つづいて、生活保護障がい者退院促進事業と指定特定相談支援事業者の指導について報告を。</p>
事務局	<p><u>資料6、資料7の説明</u></p>
会長	<p>生活保護を受けてなおかつ長期に入院しておられる方を地域で支援をするという国の方からのイニシアティブで行われている事業で、出雲の場合は割と早くからこれを利用して43名の方が地域へ移行されたということだが、なかなか高齢や長期入院で地域に移行しがたい方が残っておられるということでケアサポートで同じような病気を持った方が訪問されたりして励ましたりされているが、なかなかサポートが進まなかったということである。</p> <p>何かこれについて質問はあるか。</p> <p>障がい者も高齢者もみんなそうだが、施設から在宅への流れの中で特にこの生活保護については保護費の問題がありますので、国の方が進めてきている。よろしいか。</p> <p>それでは、その次の指導についても市町村は責任を持って事業者の指導をしなくてはいけないということである。よろしいか。</p>
会長	<p>次に専門部会と就労支援ネットワーク会議のところ。これが出雲の特徴で、きめ細かく生き生きと支援ができていのは主に専門会議やネットワーク会議の活動によるところが多いかなと思う。就労支援ネットワーク会議から順次説明をお願いします。</p>

各部部长等	<ul style="list-style-type: none"> ○就労支援ネットワーク会議 ○つながる部会 ○じりつ部会 ○こども部会 ○ささえる部会 ○くらし部会 <p style="text-align: right;">資料 8 で説明</p>
会長	<p>5つの部会と就労支援ネットワーク会議の説明をいただいた。どこも2か月に1回か毎月定例会を開いて、研修と同時に問題解決のための取り組みをしていただいている。何か質問、意見はあるか。</p> <p>たぶん関わっておられない方は、何でこんなたくさん専門部会があって、それぞれ活動しているのかというふうに思われることもあるかと思うが、以前の障がい者の福祉というのは、施設で完結していた。</p> <p>その後障がい者福祉は、施設から地域移行に非常に大きく流れてきた。住所と生活の場、就労の場を別々にするというで動いてきたので、そこをいかにつなぐか、地域でそれぞれ生活しておられるので、その当事者や家族の意向を聞きながらサービスをつないだり既存の施設とつながらないといけないということで、こういった部会を立ち上げてやってきたということ。</p> <p>特に住居や移動サービスを利用するという基本的なところ、それから健康危機や短期入所や救急をどう活用するか、究極の社会参加の一つである働くということをどういうふうに実現して支援するか、子どもに関しては生まれてから家庭でのケアから保育それから養護学校を含んだ学校、学童、それから特に養護学校から就労というところでの流れがあるわけだが、そのいろんな機関がバラバラになるのでそこをいかにつなぐかということで、こういった専門部会等を立ち上げているということである。</p> <p>焦点としては、施設から地域へ移行した中で、サービスや資源をうまく使いながら本人のイニシアティブでいろんな形の社会参加をしていただく手立てを、いろんな側面で考えていこうと。それはいくら制度ができてつなぐことができないといけないので、こういった取組をしていただいているということで終わらせていただいてよろしいか。個別にはいろいろご意見があると思う。</p>
5. 議事 会長	<p>議事に入るが、1つはどういうことがお困りかということについての国の調査事業を受けるといことと、出雲ではいろんな相談支援事業所のネットワークやいろんな形の支援のネットワークでソフト的には、支援の輪が組まれているが、特に非常に難しい、例えば医療を受けるとか健康危機の時等を含めたもっと支援を強化するような拠点整備を進めていくのにどうしたらいいか、そのためのニーズ把握をどうしたらいいかというのが、次の議事の(1)(2)(3)になる。この支援事業を受けるといことと県の方から参加してもらい指導いただくといこととで今回県の方からも参加いただいている。</p> <p>それでは、議事に入り、(1) 国の調査研究事業の実施について説明を。</p>

事務局	<p><u>資料9の説明</u></p>
会長	<p>国の方で、特に重要なサービスについて実態把握に基づいて充実効果的な運用をしてくださいということで、移動支援と日常生活用具給付等の事業と日中一時支援の3つについて、手を挙げてやってくれと県の方から声掛けをいただき、出雲市で実施することになったということである。</p> <p>2番目の日常生活用具給付等の事業については、常時見直しをかけているし、利用者、利用分類も増加しているということで改めて調査をする必要はないだろうということで昨年から課題になっている移動支援、それから日中一時支援については、いろいろ費用対効果も含めてどういう活用するかということで課題があるのでこの2つについて、国の調査事務を行うということと市として課題になっている生活支援拠点整備等国の調査項目に市の独自項目を追加して実施したらということで、そのための協議会の開催日数や検討内容や委員の委嘱等を変更させていただきたいという提案である。</p> <p>3頁以降の内容については、後でご審議いただきたいと思うが、国の事業をこういう形で実施して、プラスαで市の調査を上乗せすることで意見、質問はあるか。</p>
B委員	<p>日中一時支援事業については、80%以上が児童が占めているということで、その利用時間というのは放課後等デイサービスの利用後ということで非常に関連しているかなと思いますが、放課後等デイサービスのニーズ把握は同時にできないでしょうか。</p>
事務局	<p>放課後デイサービス等のニーズ把握は、この後アンケートの箇所でお答えするが、計画策定に当たってそれぞれのサービスのニーズ把握ということでお尋ねする予定としている。後でアンケートの箇所で説明する。</p>
会長	<p>国の事業が、日中一時支援ということで書いているので、大きな目的はそういうにしている。関連して調査はしたいということである。</p>
C委員	<p>移動支援もタクシー事業も非常に重要な事業で注目したいと思っている。市としては、効果的に利用してもらいたいためにデータを利用されるのは分かるが、くれぐれも今まで利用していた者のサービスが落ちるとかがないように、利用していない人を利用ができるように整理してもらおう。何らかの事情で条件が付いているために利用できない人達を利用できるようにもって行ってもらいたいというのをくれぐれもお伝えしたいと思う。</p>
会長	<p>後で議論になるでしょうが、一つは行きたい人が行けないという（タクシー利用券の）枚数の関係があるし、今タクシーは、稼働率が非常に出ていないという側面とそれから中山間地域の利便性の悪い所での事業展開が出来ないというのが</p>

D委員（県）	<p>課題で、その辺を焦点に検討することになるかと思う。</p> <p>県の方から来ていただいているので、何かご意見とかあるか。</p> <p>この調査事業については、国の方から急に話が出て来て、国としては、あくまで地域生活支援事業の効果的実施のための調査、それから国の何か事象にするための調査の側面もあるようでこちらの中で使えるもの。国は、当初の考えの中で各市町村がするいろいろな調査の事業に併せて実施することが当初から想定されていたようで、今回各市町村に声掛けをさせてもらったうえで出雲市に少し協力をいただき県も一緒に取り組んで行きたいと思っているところである。一応、事業実施主体としては出雲市の形となり県はその支援という形になっている。今後、協議会の場等でもいろいろご意見をいただき、議論を深めていただけたらと思っている。</p>
会長	<p>時期とかいろいろな項目の縛りが出てくるし、そんなにたっぷり調査費が付いている訳ではないので、市として主体的にこのデータをうまく活用してよりよいサービスに繋げるということで取り組んで行けたらと思う。</p> <p>他によろしいか。</p> <p>それでは、具体的な内容は3番目で協議させていただきたいと思う。2番目の「地域生活支援拠点整備の進捗状況」についてお願いします。</p>
事務局	<p><u>資料9の18頁から説明</u></p>
会長	<p>大きな支援センターの建物が立つというイメージではなくて、コーディネーター等も少し入れてそれぞれの支援専門員や施設等の繋がりをより強力に支援すると、そのどういう形の個々のセンターとして機能したらいいかをいいかというようなことを検討していただくというイメージである。E委員それでよろしいか。</p>
E委員	<p>プロジェクトチームの座長をしている。今回、専門部会に大変協力をいただいて始まったということで、これからだと思っているところである。2年かけて面的整備型でやろうということになっていて、プロジェクトチーム及び専門部会で協力してお願いしたことをやってもらったうえで報告もいただき2年後にどういう形になるかが、主なところである。結局は、緊急時の受け入れ体制をどうするかと体験の場を作ろうという2本立てがいけばいいかなと思っている。</p> <p>ぜひ、これは一事業所でやるというものではなく、出雲市内の事業所と障がいを持っておられる方のネットワークで行う事業であるので、各事業所や団体の協力のもとでできることは何かということをそれぞれ考えながらやっていかなければいけないと思っている。要は、緊急時の対応だが、障がいを持っている方が予期せぬ場合、または予期できる場合に、例えば災害時や家庭の事情等で緊急時に受け入れることができる出雲市の支援ができたらと思っている。</p> <p>出雲市には、委託事業所が9か所、相談支援事業所と実際7か所の入所施設があるが、そういう施設が機関車役をして面づくりが面的にできたらいいと思って</p>

	<p>いる。どうぞよろしく申し上げます。</p>
会長	<p>何かご要望等あれば、関係の部会等や座長に連絡いただけたらと思う。</p>
C委員	<p>各部会でいろいろ協議していただいて感謝している。緊急時というのは大変重要なことだと思うが、プラスαでレスパイトという観点で考えていかれたらもつといいかなと思って、何かないとお願ひできないのではなくて、何もなくても利用できる体制等地域移行になりつつあって、やはり家庭での負担がかなり大きくなってきているところで、家庭の負担も考えたり家庭支援も考えていただき、緊急時だけでなくレスパイト的な観点で皆さん協力していただける当事者の家族としては、すごくそう願ひたいと思っているのでよろしく申し上げます。</p>
会長	<p>その場合、短期入所施設の活用ということを中心になりますよね。医療機関にレスパイトでは、ちょっと無理という感じが見受けられます。</p>
E委員	<p>短期入所は、出雲市内にあります医療機関の2つの病院も手を挙げておられ短期入所も始まっていたが、公的な短期入所施設だけではなく、たしかくらし部会で居場所づくりをマップを作りながら考えておられ、公的な短期入所だけでなく市内にもっと気軽に入れるような家族と一緒にいけるような場所があるけど知らなかったというところを、この際オープンにしてもらい、居場所づくりを見えるようにすることが大事だということで、今マップ作りにも入れてもらっていて、そういうところも今度地域の中のインフォーマルな資源としても発掘というか、またはないなら出雲市で考えると公共施設でもあるのではないかと、各事業所でやってみようかとかがあるかなと思っている。居場所づくりという観点でやっぱり大事だと思っていますので考えたいと思う。</p>
会長	<p>この整備事業は2年間ですので、また報告してもらいながら議論していったらいいと思います。先程のC委員の提案に関しては今の考え方で進めていただけたらと思う。他にあるか。</p>
事務局	<p><u>資料9の3頁～9頁、10頁～17頁で説明</u></p>
会長	<p>前提として、字は小さいがこれは今項目だけを検討してもらおうという意味で、こういう書き方をしているということで、利用者用のアンケート等については、字を大きくしたりの工夫をすることが前提で、回答者の特性が1からと障がい者の状況が6から8、それから社会参加については9から16ということで、これは基本的には国が示しているもので、変更不可ということです。全国項目ですのでそれで市の項目の間12から16については、旧町村のどこにいるかということと、外出の目的を聞く手段、そして将来の希望そのための必要な支援は何か、なかなか実際回答が難しい項目が並んでいます。</p> <p>それから移動支援、障がい者福祉タクシー制度について、国の項目が17から</p>

	<p>26ということで、サービス利用のきっかけ、他のサービス利用を検討したかどうか、そのうえでこのサービスを選んだ理由、現在の利用、移動支援事業の内容、ここら辺は注釈がないと分かりづらいかも。21が頻度、それが希望どおりかどうか、それが希望どおりでないとすればどういう理由か、このサービスを利用することで外出頻度が増えたか満足しているか、それで生活の質が向上したかということが国の設問です。</p> <p>それから先程もあったように、支援の申請をしても100人ぐらいの人が利用していないということがあるので、利用申請をしたかが問27、利用実績があるかどうか、それから言葉で利用実績があるかを言うのは、固いし分かりにくいので、この辺の設問も考えてもらうようになると思う。当サービスの利用目的、何のために利用しているのか、利用しなかった理由は何か、障がい者福祉タクシーの利用状況について利用しているか、交付を受けているか、枚数は足りているか、タクシーの予約は取れているか、その他意見ということで先程C委員が言われたようなことですね。日中一時については、国の方がサービス利用のきっかけ、これ同じ聞き方である。</p> <p>それから他のサービスも検討したか、このサービスをどうして選んだか、どれぐらい利用しているか頻度、それから希望どおり使えているか、それが使えない理由、満足度と生活の質が向上したかという国の方の聞き方が問44である。問45からは、日中一時支援の利用申請があるか、利用実績があるか、利用しなかった理由は何かの3項目を市の方で設定して、計画策定のためのニーズ把握ということでサービスの利用をしているかどうかということと生活支援事業等の利用状況はどうか、ここも注釈があるかもしれないが、こういったことでまず利用者向けの項目が構成されている。</p> <p>特に専門部会で検討してもらっているのは、事前に議論されているかもしれないが、聞き方とかどんな事業の内容なのかは郵送なので注釈を付けてないと答えにくいかなということと、聞く内容が非常に幅広くて答えづらい。例えば問15は、将来地域での生活を希望しますかという項目があり、現状の住居と併せて聞くような項目になるが、なかなかこういう項目は、高齢者へのアンケートとしてはなかなか回答が返ってこないものではあるが、そういう方向も聞きたいということで今回入っているが、どうか。</p> <p>専門部会の方は、何かコメントがあるか。特に移動手段のところとかよいか。</p>
F 部会長	<p>サービス自体に満足しているか、していないかという項目があるが、していないという記載が入った場合の回答欄があってもいいと思う。</p>
会長	<p>国の問25が、当サービスというのは移動支援事業だが、満足していますかに5段階で聞いていて、満足度の調査で今後を聞く場合は何でできなかったを聞くのは簡単だが、満足度で満足の理由や不満足の理由を聞くと非常に大きくなるので、それを想定されればそういう項目を入れておかないといけないと思う。そうでなければ自由記載にならざるをえない。</p> <p>それと、問25の項目で4番と5番の方はこちらにご回答くださいとかの作り</p>

	<p>方をすると非常に複雑になるので、アンケートの作り方としては基本的に1つのことしか聞かないということになるので想定されればそういうことが分かる項目を入れておかないといけないと思うが、例えば移動支援で満足が低いということになると、使ってもどうかとかクロスをすれば、利用が増えたけど満足してるとかしてないとかは分かるが、例えば問24と問25クロスで分からないところの聞く必要が、これを聞いておいたらいいなというアイデアがあるか。</p> <p>それから市の問29で、複数回答可で例えば福祉サービス事業所への送迎と余暇活動参加の両方あるとなると、どっちに満足しているのか分からなくなるが、実態としてはどういうことに利用しているかということを知りたいのではないかと聞きたい。または、最も主な利用方法、目的はどれですかと絞り込むかのどちらかである。</p> <p>アンケートは、A4で表と裏で2枚ぐらいしか十分な回答は得られないと思う。ただ、当事者で関心のある方も多いのでそういう方は熱心に答えてもらえると思うが、それでもこれを見やすくレイアウトして文字を大きくして回答しやすくしたり注釈をつけるとなると相当な頁数になるので、3頁ぐらいでほしいと思う。今まで出雲市はなるべくこういうアンケートはやめて、当事者に支援事業所でお聞きする。それぞれの団体でアンケートを取ってもらうという手法を取って来た。</p> <p>今回は、国の事業で足りない所はしょうがない。あまり時間をかけて、ああだこうだと言ってもいろいろ難しいので、それぞれの専門部会で議論したところでこういう集計の仕方をすればほしいという見通し感があればそれでいいのではないと思う。そういう面で専門部会でもう1回見直ししていただければいいかなと思う。これ以外で何かご意見あるか。</p>
G委員	<p>アンケート問30で、移動支援事業を利用しなかった理由は何ですかという問いがあるが、例えば2番のサービス提供事業所の支援員の不足そして3番のサービス提供事業所の車両の不足という項目等があるが、利用している人は、サービス提供事業所に支援員がいったい何人いて、たまたまその日だけは専門員が不足していたのが、全体的に支援員が少ないのかというのは分からないと思うが、事業所の車両が何台あって不足しているかというのは、そんなことは利用者の人には分かるわけないのでそれを問で聞くというのは、どうかなと思う。</p>
会長	<p>だから対応するサービス提供事業所がなかったということと、あるけれど来てもらえなかったという2つの問いになります。それでいいか。例えば中山間地域だで行ってくれるサービス支援事業所がない。</p>
G委員	<p>そうですね。そういう聞き方ぐらいしか利用しなかった、できなかった理由というのは、当該地域になかったので遠くの所から頼んだけど都合がつかなかったということはあるかと思うので、そういうことでできなかったということは考えられるかもしれない。</p>
会長	<p>ここをアンケートで聞きたいのは、もしサービス支援事業所が、遠隔地等でな</p>

	<p>かったという実態がこれではっきりすれば、そういう所に対して金銭的なサポートをしてでも一応行ってもらえる体制を取るかということにつながる。</p>
G委員	<p>そうですね。現在移動支援事業をやっている所が近くなかったので、あればできるかもしれないが、その辺のニーズを聞きたいということでこれを入れておられる。</p>
会長	<p>だから100人ぐらいが何で使えていないという点をここではっきりさせたいのではないかとということで、言われるようにサービス提供事業所の中身は利用者に分からないので、サービス提供事業所が対応してくれなかったのか、それともサービス提供事業所そのものが頼む所がなかったのか、頼める事業所がないということで2と3をちょっと変えてもらったと思う。他はよろしいか。</p>
E委員	<p>地域生活支援拠点整備に関する把握というアンケートでみると、専門部会のアンケートはたぶん1000人規模の障がいの方にお問い合わせするということは、まず無理なので相談支援専門員に聞く程度だと思う。</p> <p>この1000人に対するせっきくのアンケート調査の中に、拠点づくりの内容を少し盛り込もうと思うと、問15、16ではうすっぺらすぎて地域生活支援拠点づくりに対するアンケート項目は見当たらず、例えば問16で先程から言われている地域で生活するために必要な支援は何ですかだと、(回答は)7と9だけでは駄目で、例えば出雲市の拠点づくりで災害時の受け入れとか介護者が入院したための緊急時の受け入れについてももう少し質問しようとするすると問16の7の緊急時の受け入れ体制の中で、「その受け入れについて心配していないか」とか「あなたは、そういう時の受け入れ先がありますか」とか、「災害時に緊急避難場所がありますか。」とか「受け入れ先は心配ないですか。どういう所がありますか、付き添う人は当てがありますか」等の質問を、もうこういう調査は2度とないかと思えます。それをちょっと入れて障がいを持っている方、子どもの家族がどういうリスクを背負っているかということ聞いた方がいいと思うので、付け加えた方がいいかなと思うがいかがか。</p>
会長	<p>その設問をしようとする、一つは生活全般について今どこに困っているかを随時聞くとなるとそれだけで2つの基本事業についてしか聞いていないので、相当大きなアンケートを別途構えなくてはいけないということと、センターの構想がはっきりしていればそれについて聞くというのは、2～3項目で済むのでOKかもしれないが、生活全般について聞くというのはこのアンケートでは難しい。</p> <p>もしするのであれば、今ポイントと考えていることについてこの段階で公表していいのであれば重点としてこういうことを考えているけど、どうだろうということになるが今の段階でそれは出せないでしょう。</p> <p>そうすると整理ができた段階でフォーカスインタビューではないけれど、利害関係がある人に丁寧に説明してどういう形でやったらいいかというのを専門部会等で丁寧に聞き取りをするほうが調査手法としてある程度いいと思う。</p>

	<p>たしかに問16は、散漫でいろんなことを聞いているので、それで本当に大丈夫かというのは、心配はあると思う。並べ方とかいろいろなカテゴリーがいっぺんにあるのでちょっとその辺整理が必要かもしれない。地域のことを聞いているのか、自分の生活のことを聞いているのか緊急体制のことを聞いているのか一緒になっているので、こういう設問は難しい。他にいかがか。</p> <p>アンケートというのは文字だけがひとり歩きするので、その文字をどう解釈するのかが相手に影響しているし、どこまで協力してもらえるかも違うので非常に難しい調査ではある。一番項目がバラツクとしているのは問16だと思う。</p>
事務局	<p>問15と16の質問だが、敢えて曖昧な言い方になっている所はある。ただ、これではなかなか答えるのが難しいかもしれないので事務局で考えてみる。</p>
会長	<p>2～3問ぐらいで、こういう聞き方をという提案があれば後で事務局へ報告していただきたい。郵送のアンケートで回収がものすごくよくて7割、非常に関心あるところで5割、通常は3割ぐらいしか回収ができない。</p> <p>出雲市の場合、要介護やかかりつけ医というのは、6～7割回収ができていると思うが、なるべく最後までつけてもらえるように内容の精査をしていきたいと思う。時間の問題があるので専門部会で検討したり会長と副会長と事務局で相談してやって行けたらと思う。</p> <p>それでは、障がい者福祉サービス提供事業者、これはデータをしっかり取ろうということで具体的に実態や何が十分でないのかを聞くような項目になっていて、これについては今までかなり積み重ねがあるので、そういう聞き方になったかと思いますが、特に気づかれた点があればご意見ください。</p> <p>制度の利用実績や今後の意向を聞くような項目なので、特に分かりにくい項目というのは、最後の問56は何か上乘せしてもらえるかということができそうな項目ではある。よろしいか。</p> <p>事業者宛ては、これでフォーマットを含めて基本これでいいと思うが、利用者宛ては、答えやすいということで項目立てや聞き方も含めて変更になると思うので、その辺はかなり事務局と作業をして、アンケートを9月にするということなので、8月のところで皆さんにも見てもらいたいと思う。</p> <p>そういう段取りでいいか。</p> <p>幸い専門部会がしっかり活動しているので、知恵を寄せ集めて頑張っていきたいと思う。実際、別になっている移動支援の事業の実態やタクシー事業の具体的なことも全体的なサービス利用のところでは出ていたが、アンケートが出たらこれと併せて皆さんに議論していただけたらと思う。国の事業をするということ日程的なスケジュールもタイトでこの場で見てもらうことになりましたが、今後の進め方についてよろしいか。</p> <p>では、一応今日の報告と議事はこれで終わるということで事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>先程、B委員から日中一時支援事業のニーズを把握するにあたり、放課後等デ</p>

<p>事務局</p>	<p>イサービスのことも関連して調べたらと言われ、後のアンケート内容のところで話しますと言ったが、資料9の9頁の間48で聞かせてもらうことにしている。</p> <p>委員の皆様、大変ありがとうございました。 アンケートの調査項目については、正副会長と事務局で詰めさせてもらいたいと思いますのでどうぞご了承をお願いします。</p>
<p>6. 閉会 部長</p>	<p>ありがとうございました。色々な議論があるかと思う。今日指摘いただいたアンケートの関係だが、設問に意図等がしっかり伝わるような最終的にはアンケートをお願いする業者と项目的なものや答えやすさ等を考えていきたいと思う。</p> <p>なお、この決定までには時間があるので、各部会と各委員でお気づきの点がありましたら事務局までお願いします、非常にありがたい協議をいただいたと思う。事務局の方も、これに向かって準備を進めていきたいと思うので、よろしく願いいたします。今日は、どうもありがとうございました。</p>